

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 特定非営利活動法人
日本語・教科学習支援ネット

1. 事業名称 定住する外国にルーツを持つ子どもたちの生活支援事業

2. 事業の目的

- 1、横浜市とその近隣に在住する外国につながる子どもたちが、自分らしく生きられるようにすること。
- 2、日本語指導者を対象とする。彼らが支援に必要な知識や有用なスキルや教材などのアイデアを理論面・実践面双方から得、子どもたちの目線に立った支援ができる指導者を養成すること。
- 3、日本で生活していく上で欠かせないが、一般的な日本の家庭のように親やメディアから情報を得られず習得できない社会的な事柄について、やさしい日本語を使った教材を作る。それにより、社会の一員として自立し、かつ地域の人々と共に生活が送れるようにする。

3. 事業内容の概要

- 1、毎週1回放課後に日本語教室を開催し、日本語の支援を行う。同じ背景を持つ仲間と交流し励まし合える居場所的な役割も果たす。
- 2、研究者から各専門分野の知識を学ぶと同時に、さまざまな立場の実践者から多様なアイデアを得、意見交換をしながら、自らの支援に活かしていける実践的な講座を行う。
- 3、生活者として健康で、安全な住みよい社会を作ろうとする意欲と関心が持てるような教材を作る。子どもたちは多国籍にわたるので翻訳はせず、日本語力を着実に身につけるために、やさしい日本語で解説する日本語教材とする。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 6月30日 16:00 ～18:00	2時間	かながわ県 民サポートセ ンター604号 室	坂内泰子 ヤマダ・キヨコ ベッティー Norman Nakamura 樋口万喜子 頼田敦子 古屋恵子 細野尚子	今年度の文化庁事業の概略報告 ・日本語教室の現状と今後の展開について、 ・研修講座の現在の申し込み状況と公開講座について、 ・教材作成のテーマについて	・日本語教室～生徒の集め方や定員制について ・研修講座～昨年度に引き続き受講希望者がいた場合の対応について ・教材の対象、資料の集め方、日本語教材としての工夫について
2	平成25年 9月1日 16:00 ～18:00	2時間	かながわ県 民サポートセ ンター701号 室	坂内泰子 ヤマダ・キヨコ ベッティー Norman Nakamura 樋口万喜子 頼田敦子 古屋恵子 細野尚子	各事業の進捗状況について ・日本語教室の生徒数、夏季教室の支援者数と教室の様子・研修講座の受講者数と講座の様子、公開講座について ・教材サンプル提示と今後の計画	・教材の対象と作成の目的についての確認 ・教材のテーマの絞り込み
3	平成26年 2月2日 14:30～ 16:30	2時間	かながわ県 民サポートセ ンター604号 室	坂内泰子 Norman Nakamura 樋口万喜子 頼田敦子 古屋恵子 細野尚子	各事業の報告 ・日本語教室の生徒数、冬季教室の支援者数と教室の様子 ・研修講座の振り返り ・教材最終テーマと仕様について	・日本語教室の今後の展開についてと来年度以降の予定 ・教材の全体テーマとタイトルについて

5. 日本語教室の実施

- (1) 「未来へつなぐ」日本語を母語としない子どもの日本語教室
- (2) 目的・目標 横浜市とその近隣に在住する外国につながる子どもが、社会の中で自立できるようにする。
- (3) 対象者 横浜市及び近隣に在住する日本語を母語としない中学生。
- (4) 開催時間数(回数) 70 時間 (全 35 回)
- (5) 使用した教材・リソース 各テーマ(環境・食料・税金・人権)について、講師が作成した教材。読み物教材としては「朝日新聞(2014年1月16・20・21日)」およびアイヌ文化振興・研究推進機構制作のDVD「アイヌの歴史と文化」、読み物は「新しい国語 1年」(東京書籍)、「国語5年」「国語2」(光村図書)等。
- (6) 受講者の総数 23 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- (出身・国籍別内訳 中国 19人、フィリピン3人、モンゴル人1人)
- (7) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名
1	2013/6/12 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	6人	中国(4)、 フィリピン (2)	「日本を知ろう 日本の文化と暮 らし」概説と自己 紹介	授業の内容(日本に住む人々の文化や 暮らし、社会問題などを学んでいく)を紹 介する。自己紹介し合う。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子、柳沢緑
2	2013/6/19 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	7人	中国(5)、 フィリピン (2)	読み物「やさしい 日本語」1、日本 語	パンフレット「やさしい日本語」を読む。 http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子
3	2013/6/26 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	10人	中国(7)、 フィリピン (2)、 モンゴル (1)	読み物「やさしい 日本語」2、日本 語	「やさしい日本語」がどのような目的を 持って作られ、どんな効果があるか話し 合う。その内容を箇条書きにする。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子、柳沢緑
4	2013/7/4 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	10人	中国(7)、 フィリピン (2)、 モン ゴル人(1)	森林破壊につい て知ろう1	テーマを学ぶに必要な語彙や漢字を確 認する。「ボルネオなどの森林減少の移 り変わり」を読み、画像などでも確認す る。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、山田美香、柳沢緑、萩原久 美子、樋口万喜子
5	2013/7/11 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	11人	中国(9)、 フィリピン (2)	森林破壊につい て知ろう2	「森林の大切な働き」について知り、「ど うして森林が無くなるのか」原因を考え る。パーム油の現状と問題を知る。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、樋口万喜子、柳 沢緑
6	2013/7/18 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	14人	中国(11)、 フィリピン (3)	森林破壊につい て知ろう3	森林がなくなるとどうなるか、その影響 をデータから予想し、どうしたら森林破 壊を防げるのか、対策を考える。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、樋口万喜子、柳 沢緑
7	2013/7/25 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	11人	中国(8)、 フィリピン (3)	読み物『鳥獣戯 画』を読む1、日 本語	マンガの魅力や、自分の好きな漫画を みんなに紹介する。マンガの祖『鳥獣戯 画』の絵を見て、感じたこと・読み取っ たことを話し合う。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、萩原久美子、樋 口万喜子、柳沢緑
8	2013/7/31 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	5人	中国(5)	読み物『鳥獣戯 画』を読む2、日 本語	『鳥獣戯画』の一場面を説明する文章を 読んで、「評価を表わす言葉や表現」を 学び、他の絵や音楽で実践する。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子、柳沢緑
9	2013/8/19 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	12人	中国(9)、 フィリピン (3)	税金について学 ぼう1	テーマを学ぶに必要な語彙や漢字を確 認する。一日の生活をながら、どんなと ころで税金が使われているのか考える。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子、柳沢緑
10	2013/8/20 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	13人	中国(10)、 フィリピン (3)	税金について学 ぼう2	税金の種類やしきみを知る。公共サービ スと税金の関係について知る。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、山田美香、樋口万喜子、柳 沢緑
11	2013/8/28 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	13人	中国(10)、 フィリピン (3)	税金について学 ぼう3	税金がなくなったらどうなるか考える。内 容理解のクイズを解きながら、知識を整 理、確認する。	樋口睿志、大澤洋子、頼田敦子、細 野尚子、山田美香、樋口万喜子、柳 沢緑
12	2013/9/4 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	12人	中国(10)、 フィリピン (2)	読み物「ゆるやか につながるイン ターネット」	インターネットを利用する際に注意すべ きことを話し合う。箇条書きにして、ま とめる。メディアリテラシーについて学ぶ。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子、柳沢緑

13	2013/9/11 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	13人	中国(11)、 フィリピン (2)	読み物「ゆるやか につながるイン ターネット」	インターネットに関する言葉や表現を学 ぶ。検索エンジンを使って、必要な情報 を得ることを実際にやってみる。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、山田美香、樋口万喜子、柳 沢緑
14	2013/9/18 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	11人	中国(9)、 フィリピン (2)	「地球温暖化」に ついて学ぼう1	テーマを学ぶに必要な語彙や漢字を確 認する。「地球温暖化とは何か」を知る。	樋口睿志、古屋恵子、細野尚子、頼 田敦子、山田美香、樋口万喜子、柳 沢緑
15	2013/9/25 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	11人	中国(8)、 フィリピン (3)	「地球温暖化」に ついて学ぼう2	地球温暖化の原因と、その影響を知る。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、萩原久美子、樋 口万喜子、柳沢緑
16	2013/10/2 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	12人	中国(9)、 フィリピン (3)	「地球温暖化」に ついて学ぼう3	どうやって、地球温暖化を防げるのか対 策を知り、自分たちのできることを考 えてみる。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子、柳沢緑
17	2013/10/9 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	12人	中国(9)、 フィリピン (3)	日本の食糧問題 1	テーマを学ぶに必要な語彙や・漢字を 確認する。自分たちの食生活を調べる。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子、柳沢緑
18	2013/10/1 6 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	11人	中国(9)、 フィリピン (2)	日本の食糧問題 2	食料自給率の問題と、その解決策を考 える。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子、柳沢緑
19	2013/10/2 3 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	12人	中国(9)、 フィリピン (3)	日本の食糧問題 3	日本の農業や水産業について考える。 食品表示について学ぶ。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、山田美香、柳沢緑、萩原久 美子、樋口万喜子
20	2013/10/3 0 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	13人	中国(10)、 フィリピン (3)	世界の飢餓問題 1	テーマを学ぶに必要な語彙や・漢字を 確認する。世界の飢餓の状態について 知る。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子、柳沢緑
21	2013/11/6 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	12人	中国(9)、 フィリピン (3)	世界の飢餓問題 2	飢えをなくすための国連の支援活動に ついて学ぶ。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、山田美香、樋口万喜子、柳 沢緑
22	2013/11/1 3 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	12人	中国(9)、 フィリピン (3)	世界の飢餓問題 3	飢えをなくすために私たちができるこ とを考えよう。	樋口睿志、大澤洋子、頼田敦子、細 野尚子、萩原久美子、樋口万喜子、 柳沢緑
23	2013/11/2 0 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	12人	中国(9)、 フィリピン (3)	読み物「コンビニ 弁当17万キロの 旅」1.日本語	読み物に使われている語彙や・漢字を 確認する。挿入されているイラストやグ ラフが、テキストとどうつながっているか 確認する。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、山田美香、樋口万喜子、柳 沢緑
24	2013/11/2 7 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	12人	中国(9)、 フィリピン (3)	読み物「コンビニ 弁当17万キロの 旅」2.日本語	既習の食糧や飢餓問題と関連付け、さ らに調べてみたいことを話し合う。調べ る方法についても、グループごとにアイ デアを出し合う。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子、柳沢緑
25	2013/12/4 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	13人	中国(10)、 フィリピン (3)	フェアトレードに ついて知ろう1	テーマを学ぶに必要な語彙や漢字を確 認する。フェアトレードとは何かを知る。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子、萩原久美子
26	2013/12/1 1 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	12人	中国(9)、 フィリピン (3)	フェアトレードに ついて知ろう2	なぜ、フェアトレードが必要なのか、その 理由を理解する。問題点も話し合う。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、山田美香、樋口万喜子、柳 沢緑
27	2013/12/1 8 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	12人	中国(9)、 フィリピン (3)	フェアトレードに ついて知ろう3	公正な貿易ができるよう講じられている 対策を知り、私たちにできることを考 え、書き留める。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子、柳沢緑
28	2014/1/5 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	20人	中国(18)、 フィリピン (2)	読み物「文化を伝 えるチンパン ジー」1	自分の国の「文化」といえるものを紹介 する。文化とは何か、考える。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子、柳沢緑
29	2014/1/6 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	21人	中国(19)、 フィリピン (2)	読み物「文化を伝 えるチンパン ジー」2	チンパンジーの道具の使い方を観察し た文を読み、文化とは固有のものであ りながら、変容していくことを学ぶ。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、山田美香、柳沢緑、萩原久 美子、樋口万喜子

30	2013/1/15 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	12人	中国(9)、 フィリピン (3)	読み物「食の世 界遺産 鯉節」1、 日本語	鯉節に関する文を読み、その言葉や表 現を知る。鯉節を題材に伝統的な食文 化について知識を得る。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子、柳沢緑
31	2014/1/22 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	12人	中国(9)、 フィリピン (3)	読み物「食の世 界遺産 鯉節」2、 日本語	中国の乾鮑、ヨーロッパの干し肉、日本 の乾燥食材について、その作り方や料 理法、味やその食にまつわる経験を自 由に話し合う。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、山田美香、樋口万喜子、柳 沢緑
32	2014/1/29 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	12人	中国(9)、 フィリピン (3)	アイヌの歴史と文 化1	●イメージをつかむ(第32回) どんな歴史や文化があるのか見てみよ う。 アイヌ文化や歴史を解説したDVDを見 る。	樋口睿志、古屋恵子、細野尚子、頼 田敦子、山田美香、樋口万喜子、柳 沢緑、萩原久美子
33	2014/2/5 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	12人	中国(9)、 フィリピン (3)	アイヌの歴史と文 化2	自主教材①「アイヌの歴史と文化」を読 む。「覚えるべき言葉」を解説し、漢字 の読み書きとともに確認する。	樋口睿志、大澤洋子、頼田敦子、細 野尚子、山田美香、樋口万喜子、柳 沢緑
34	2014/2/12 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	7人	中国(5)、 フィリピン (2)	アイヌの歴史と文 化3	アイヌが先住民族として認められてから の新しい動きを知り、現代日本社会にお ける意義と役割を考える。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、山田美香、樋口万喜子、柳 沢緑
35	2014/2/19 16:30～ 18:30	2時間	かながわ県民 サポートセン ター	6人	中国(5)、 フィリピン (1)	まとめと振り返り	日本の文化や社会、地球規模の課題に ついて学んだことを整理し、多文化共生 社会の担い手として自信を持って生きて いけるよう振り返りをした。	樋口睿志、古屋恵子、大澤洋子、頼 田敦子、細野尚子、山田美香、樋口 万喜子、柳沢緑

(8) 受講者の募集方法

当NPO会員である教育委員会の日本語講師から生徒に直接声をかけたり、中学の国際教室の先生に声をかけて、来日間もない生徒や日本の文化や社会に強い関心のある生徒に声をかけてもらった。また、多文化フリースクールやほかのボランティアグループにもチラシを配り、受講生を募集した。

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)



2013年8月19日



2014年2月5日



2014年2月12日

第32～34回「アイヌの歴史と文化」(1)～(3)

●イメージをつかむ(第32回) 出席者 中国人9人、フィリピン人3人

どんな歴史や文化があるのか見てみよう。

- ・アイヌ文化を映像で見る
- ・アイヌの歴史を解説したDVD(アイヌ文化振興・研究推進機構制作)を見る。

●ことば・表現を知る(第33回) 出席者 中国人9人、フィリピン人3人

①自主教材「アイヌの歴史と文化」を読む。

読む前に確認しておくことばを取り上げる。わからないことばには線を引かせる。

②「覚えるべき言葉」を解説し、漢字の読み書きとともに確認する。

●体験・行動する(第34回) 出席者 中国人5人、フィリピン人2人

① 朝日新聞(2014年1月16日)を読み、日本社会のアイヌ文化の受け止め方を知る。

②TV番組「おれたちのアイヌ宣言」を視聴。日本人であっても文化や言葉との違いに苦しんだ事例を見て自分たちの状況と比較し、多文化共生社会について話しあう。

(10) 目標の達成状況・成果

日本、および世界に起きている社会問題について興味はありながら、乏しい日本語力と遠慮や、「知らないことを聞く恥ずかしさ」などで、身の回りで起きていることを日本語で表現することができなかったが、今回の学習によって、基本的な言葉や知識・考え方を知ることができた。特に税の仕組みについては、夏休みに出された「税に関する作文」の宿題を、得た知識をもとに自分なりにまとめ、提出できたことは、日本語学習者の自信となったであろう。また、食料問題の学習後は、望ましい食生活や生活スタイルに関心を払うようになった。アイヌの人権学習の後のディスカッションによって、自分たちも言葉や文化が違って日本でも自分らしく生きていける、むしろ自分たちが多文化共生社会の担い手として生きていこうという明確な意識を持たせらるようになったことが大きな成果である。

(11) 改善点について

学習者が12月ごろになると、中学生以外もこの教室に来るようになったが、はじめは、特定3校ぐらいの中学生に偏ってしまっていたことである。また、平日の夕方ということで遅刻者や、学校の行事などで無断欠席が出してしまったことが改善しなければならないことである。後者については、一人一人の自覚を促すとともに、学校行事などを月初めにこちらで確認しておくことで、かなり改善できると考える。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称 「外国人日本語指導者とともに学ぶ日本語指導研修講座

～子どもの学ぶ力と心の成長を支えるために～

(2) 目的・目標 横浜市とその近隣で日本語・教科支援を行っている外国人日本語指導者及び日本人指導者を対象として、外国につながる子どもたちを取り巻く言語環境、支援において必要な知識と取り組む姿勢、さらに実践で役に立つスキルや教材などのアイデアを理論面・実践面双方から得、子ども達の目線に立った支援ができる指導者を養成すること。

(3) 対象者 横浜市とその近隣で日本語・教科支援を行っている外国人日本語指導者及び日本人指導者

(4) 開催時間数(回数) 32 時間 (全 10 回)

(5) 使用した教材・リソース

『にほんごだいすき』シリーズ 鈴木重幸・工藤真由美・小高愛 むぎ書房

『にほんごをまなぼう』1～3 文部省 ぎょうせい

『国語』光村図書5年上 光村図書中学2年

『社会』光村図書5年

『JSL中学高校生のための教科につなげる学習語彙・漢字ドリル』

NPO中学高校生の日本語支援を考える会編 ココ出版

『進学を目指す人のための教科につなげる学習語彙6000語』

NPO中学高校生の日本語支援を考える会編 ココ出版

(6) 受講者の総数 67 人 (内 公開講座参加者43名)

(出身・国籍別内訳 中国 5人, 韓国 2人, 日本 60人)

(7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年 7月21日 13:30～ 16:40	3時間	かながわ県 民サポートセ ンター	19人	中国(2 人)、韓 国(2 人)、日 本(15人)		・多文化教育の視点から、外国につ ながる子どもの現状と課題を教え る。 ・母語による教育支援活動やそこか ら見えた課題、学力の向上と心の 成長における母語の役割について 教える	樋口 万喜 子 李原翔	
2	平成25年 7月28日 13:30～ 16:40	3時間	かながわ県 民サポートセ ンター	16人	中国(3 人)、韓 国(1 人)、日 本(12人)	バイリンガルの 子供たちの言 語習得	バイリンガルの子どもの2つのタイ プの言語能力、日本語とはどんな 言語か、個人差が生まれる要因、 様々な視点から見る必要性につ いて教える。	西川 朋美	

3	平成25年 8月4日 13:30～ 16:40	3時間	かながわ県 民サポートセ ンター	18人	中国(3 人)、韓 国(1 人)、日 本(14人)	・楽しく学習させ るための日本 語教材	・子どものレベルに合わせた教材と はどのようなものか具体例を示し、 実践する。	頼田 敦子	大澤 洋子
4	平成25年 8月25日 13:30～ 16:40	3時間	かながわ県 民サポートセ ンター	17人	中国(3 人)、韓 国(2 人)、日 本(12人)	・書く力を育て る日本語学習 支援	・「書く力」を育成するために、どの ような取組が有効か。また学年によ る指導のポイントはどのようなもの か。 ・書く題材について子どもにとって 書きやすいものとはどのようなもの か。	細野 尚子	萩原 久美子
5	平成25年 9月1日 10:00～ 15:00	4時間	かながわ県 民サポートセ ンター	39人	中国(5 人)、韓 国(2 人)、日 本(32人)	【公開講座】 ・子どもたちへ の多様な支援 の協力・連携を 考えよう ・日本語指導の 計画を考えよう	・「特別の教育課程」による日本語 指導の要件や指導プログラムのイ メージについて学ぶ。 ・日本語指導の「指導計画」作成に ついて共に考えてみよう	築樋 博子	大澤 洋子
6	平成25年 9月15日 13:30～ 16:40	3時間	かながわ県 民サポートセ ンター	17人	中国(2 人)、韓 国(2 人)、日 本(13人)	・『にほんごだ いすき』を使っ たワークショップ ・教科へつなげ るための日本 語指導	・教科学習につながる一聞ける、話 せる、読める、書けるー日本語教育 のためにテキストの使い方を教える。 ・標準的カリキュラム案で扱う生活 上の行為の事例「災害に備え対応 する」事項から、避難訓練や災害時 の対応等に関する日本語指導を教 える。	小高 愛 古屋 恵子	萩原 久美子
7	平成25年 9月29日 13:30～ 16:40	3時間	かながわ県 民サポートセ ンター	40人	中国(2 人)、韓 国(2 人)、日 本(36人)	【公開講座】 ・「見えない」子 どもたちへの支 援を考える	・ニューカマーの子どもたちの変遷 から教室で同化し見えなくなってい る要因と子どもたちの多様化、これ からの支援に必要な視点を示す。	高橋 朋子	
8	平成25年 10月13日 13:30～ 16:40	3時間	かながわ県 民サポートセ ンター	19人	中国(2 人)、韓 国(1 人)、日 本(16人)	・外国につな がる子どもの高校 入試の現状 ・国際教室との 連携 ・母語を大切に した日本語支 援	・神奈川県公立高校入試の現状に ついて教える。 ・国際教室での学びの実態と居場 所としての機能、連携のとり方につ いて教える。 ・現状と課題、そこから考えられる 適切な教育とは何かを教える。	土屋 隆史 林宝愛 中村 ノー マン	
9	平成25年 10月27日 10:00～ 15:00	4時間	かながわ県 民サポートセ ンター	33人	中国(2 人)、韓 国(2 人)、日 本(29人)	【公開講座】 ・教科書と共に 使えるリライト 教材について ・リライト教材を 作ってみよう (ワークショップ)	・リライト教材、音読譜とは何かを教 える。その有用性、教材研究や課 題設定の重要性を教える。 ・作成時の留意点を教え、教材の 「ねらい」「めあて」を設定した上 でのリライト教材の作成を教える。	光元 聡江	大澤 洋子
10	平成25年 11月10日 13:30～ 16:40	3時間	かながわ県 民サポートセ ンター	21人	中国(2 人)、韓 国(1 人)、日 本(18人)	・コースデザイ ンの概要	・子どもたちのライフコースを意識し て指導計画、コースデザインをたて ることを教える。	樋口 万喜 子	

(8) 受講者の募集方法

(ア)運営委員のヤマダ キョコ ベッティ(横浜市教育委員会指導主事助手)より横浜市の国際教室担当教諭、横浜市日本語講師にチラシ(別紙参照)を送付。

(イ)川崎市、大和市、藤沢市、厚木市、横須賀市、相模原市、の各教育委員会担当部署に講座の趣旨、内容を連絡し、日本語指導員へのチラシ配布を依頼。

(ウ)「かながわ多文化子ども支援ML」、(財団法人かながわ国際交流財団 多文化共生・協働推進課)、「kodomo-ml」(中国帰国者定着促進センター教務部)、「Yokohamakokusai」(横浜市外国人教育連絡協議会:横浜市立の小中学校の国際教室担当者が中心メンバー)などのメーリングリストで受講生募集。

(エ) ホームページに募集記事を掲載 <http://nihongoshien.la.coocan.jp/nihongodaisuki/>

(9) 特徴的な授業風景(2回分)



2013年11月10日(日)13:30～16:40(第10回) 於/かながわ国際交流センター1003室

受講者: 21 名

スタッフ: 頼田、細野、富田、松川、中川

第10回

多文化の子どもたちも伸び伸び育つ社会を作るために～ライフコースに着目した日本語指導・支援～

NPO日本語・教科学習支援ネット 代表 樋口万喜子

これまでの講座では、「リライト」「教科につなげるための指導」などのようにポイントごとに研修をしてきた。講座の最後となる今回は、トータルで考えることについての研修とする。

◆日本語担当教員・日本語指導者・支援者の役割

- ・「CLARINET 外国人児童生徒受入れの手引き」より(国がどのように考えているかが書かれている)
- ・「徳島県 外国にルーツを持つ子どもの受け入れ手引き」より(わかりやすく書かれていて参考になる)

◎日本語教育を全人教育として捉える

◆コースデザイン: グループワーク(1グループ3～4人)

下記を意識して、Aさん(グループごとに背景などを設定)の1年間のコースデザインをし、発表する。

1. 5つのプログラム

→「技能別日本語プログラム」の「書く」活動について、
低学年向け: 短冊作文

高学年向け: 自分が説明したものの写真を用意してきて、作文を書く

の紹介

2. 日本語支援の基本的な考え方

3. 子どもたちの実態把握の視点

4. 発達段階による習得の特徴と指導方法

→日本語教師養成講座(420時間)で学習した人(子どもの教育に関する学習はして

いない人)と、教員免許を持っている・子どもの教育に関する学習をした人(日本語教育は学習していない人)で、それぞれが不足することを補い合うのがこの研修

→小学1年生に、子ども用とは言えテキストを順番に進めていだけなのは良くない、という例の紹介

○児童生徒に合わせてプログラムを組み合わせる、指導内容の期間を工夫、計画は適宜見直す

◎子どもたちのライフコースを意識して学びに連続性を持たせるため、指導計画・コース設計をたてよう。

◎子どもたちの知識・経験を活かすことや、将来を見通して今必要な学びは何かということを考えながら、活動していこう。

(10) 目標の達成状況・成果

アンケート(添付資料)にもあるように、日ごろ行っている指導の実態と照らし合わせて研修講座の内容を理解し、つなげていこうという姿勢が多々見られたことは評価できると考える。また、具体的な教材を用いた実践を行うことで、今後の指導にすぐ応用できる内容であったし、グループワークを通して異なる地域での現状を知り、自らの取組について再考する機会を与えられたと考える。

(11) 改善点について

今回の研修講座を通して横浜市及び近隣の日本語指導員のネットワーク作りの第一歩ができたと考える。今後もこのつながりを生かし、教材や指導法等の勉強会の開催を行い更なる支援を行っていきたいと考える。テーマによっては、設定された時間では不十分であるという声が聞かれたので、更なる研修の必要性を感じた。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称 「地球の未来とわたしたち」
- (2) 対象 外国につながる小学校高学年から中学生およびその保護者
- (3) 目的・目標
日本で生活するうえで欠かせない、日本にとどまらない世界的、社会的な事柄をやさしい日本語で理解できるようにする。そうした理解をもとに、社会の一員として自立し、地域の人々と共に、よりよい生活を求める努力ができるようにする。
- (4) 構成・総ページ数 目次、表紙含め 102ページ
- (5) 教材作成会議の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 8月4日 13:30～ 15:30	2時間	かながわ県 民サポートセ ンター710号 室	樋口万喜子、古 屋恵子、細野尚 子、大澤洋子、 中村ノーマン、 山田美香	1.教材に取り上げるテーマについて 2. 内容確認 問題等全体の構成について 3. テーマごとの担当 者について	社会の教科書で取り上げられる テーマ、夏の課題となるテーマを 取り上げることにする。おおよそ 選んだテーマを絞込み、担当者を 決定。
2	平成25年 11月10日 10:00～ 13:00	2時間	かながわ県 民サポートセ ンター703号 室	樋口万喜子、古 屋恵子、細野尚 子、大澤洋子、 中村ノーマン、 山田美香	1. 各テーマの進捗状況について 2. 内容確認問 題等全体の構成について	現段階の進捗状況の説明。第三 者の目から見た意見発表をした。 作成に当たって生じた疑問点など を共有、次回に生かすこととし た。
3	平成25年 12月22日 13:30～ 15:30	2時間	かながわ県 民サポートセ ンター604号 室	樋口万喜子、古 屋恵子、細野尚 子、大澤洋子、 中村ノーマン、 山田美香	1. 改定内容の確認 2. 個々の問題点、疑問点の 共有	前回の会議で指摘された事項の 再検討。使用するフォント、大き さ、図表の表示方法など検討。
4	平成25年 1月19日 14:00～ 16:00	2時間	かながわ県 民サポートセ ンター790号 室	樋口万喜子、古 屋恵子、細野尚 子、大澤洋子、 中村ノーマン、 山田美香	1. 仕上げに向けて、最終確認 2. テーマの配 置順序の検討	全体のページ数、流れを考慮した 構成および目次の検討、最終締 め切り煮の確認

(6) 使い方

読解教材であるので、読んで内容を理解をする。図表はきれいで分かりやすく、使える限りの新しいものであるので、日本や世界の「今」が見えてくる内容となっている。そして、一人ひとりが日本に住みつつ世界ともかかわる存在であることを自覚できる。

(7) 具体的な活用例

1. 中学生の夏の課題等でもよく取り上げられる「税金」について、この教材の「税金」を読み、内容を整理することで税のしくみをわかりやすく学ぶことができる。①「テキストの「覚えたい言葉」を確認する。②学習者にテキストを読ませる。③分からない箇所がないか確認する。④内容理解問題をさせる。⑤作文の構成フォームに自分の言葉を入れながら、作文を仕上げることも可能。⑥さらに、関連する用語を記憶したり漢字の練習をすることで、日本社会への理解を深める。

2. 、生きるのに欠かせない食料問題、森林破壊問題、エネルギー問題など、日本国内だけでなく地球規模で関連性のある諸問題について読むことにより、これらの問題を身近に感じ、自分の意見を持ちやすくなる。①「テキストの「覚えたい言葉」を確認する。②学習者にテキストを読ませる。③分からない箇所がないか確認する。④内容理解問題をさせる。⑤「調べよう」で、発展的な理解につなげる。⑥関連する用語を記憶したり漢字の練習をすることで、日本社会への理解を深める。

3. 多文化共生を理解する教材として、「アイヌの人々の歴史と文化」を活用する。①「テキストの「覚えたい言葉」を確認する。②学習者にテキストを読ませる。③分からない箇所がないか確認する。④内容理解問題をさせる。⑤「調べよう」で、発展的な理解につなげる。⑥関連する用語を記憶したり漢字の練習をすることで、日本社会への理解を深める。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

- 1、横浜市とその近隣に在住する外国につながる子どもたちが、自分らしく生きられるようにすること。
- 2、日本語指導者を対象とする。彼らが支援に必要な知識や有用なスキルや教材などのアイデアを理論面・実践面双方から得、子どもたちの目線に立った支援ができる指導者を養成すること。
- 3、日本で生活していく上で欠かせないが、一般的な日本の家庭のように親やメディアから情報を得られず習得できない社会的な事柄について、やさしい日本語を使った教材を作る。それにより、社会の一員として自立し、かつ地域の人々と共に生活が送れるようにする。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

横浜市および、その近隣の教育委員会の日本語講師や指導者の研修をバックアップする形で講座を企画運営できた。年少者日本語教育の研究者の視点を入れて研修内容を吟味し、児童生徒のきめ細やかな指導に求められるものを加えたことで、子どもたちに日本で生きていくために必要な知識や学力や高めるサポートができるようになったというアンケート回答が数多く寄せられた。実際、2月末にあった高校合格発表でも、関わってきた子ども達全員が合格し、進路保障の土台を作ることができた。

また、アイヌの講座後、学習者から、「日本にも昔から異なる言語と文化を持った人々が住んでいることを知って驚いた」などという声が多数聞かれ、多文化共生社会の担い手である彼らにとって重要な知識を提供することができたようである。DVD視聴後の話し合いでは、「自分の言葉や文化を大切に保ちながら、異なる人々とともに仲良く生きていけることが分かった。現在は、それが表に出しにくいこともあるが・・・」、「将来に希望が持てるようになった」とアイデンティティの揺らぎに悩む子供たちを精神的に支える考え方を深めることができた。また、日本の税金についてへの知識も与えられ、将来の納税者としての自覚も芽生えさせることができた。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

指導者養成講座において、カリキュラム案Ⅷ社会の一員となる16地域社会に参加することを、小学校の社会科町探検とのかかわりから、指導者が子どもにどのような問いかけをして子どもに商店について自分なりの気づきを持たせられるか考えた。狙いを持った問いかけと、予想される受け答えとのやり取りから日本語のスムーズな使用を促すことを自覚できた。子どもによっては狙い通りに行かないことも多いが、自然な日本語は大事にしたい。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

- 夏休みや冬休みに、地域の学校に声をかけ、ふだん来ている学習者の他にも受け入れて、活動できたこと。
- 研修講座の受講生が知人の大学生らに声をかけ、みずから同じ環境にいる外国につながる子どもの自立のための活動に加わった。これは、学習者たちはライフモデルに出会えたと、当NPOとしても地域の若い世代にこの活動を引き継いでもらう第一歩となった。

(5) 改善点、今後の課題について

「生活者としての外国人」の当事者である外国人指導者とともに研修を受けることと、年少者の日本語教育の目的である日本語の上達と学力向上を二大目標とする。後者は近々の課題で、外国につながる子どもたちは、教育によって、将来、多文化共生社会の貴重な人材となるので、その子どもたちが短期間にリテラシーを持った市民に成長できるよう、専門的な知識や技術を持ち、教育全般を見通すことができる支援者を養成することが現場では求められている。また、今回の研修のみに終わらず、時代と共に変わるニーズに合わせた研修を継続する必要がある。現場から必要性を感じたことを反映し、すぐに研修の場を持って学び、考え、結果を共有できるような取り組みが必要である。

(6) その他参考資料 添付:講座アンケート抜粋 ・日本では外国人への支援はまだ不十分なところがあると分かりました。全教職員で取り組み体制を作り、地域と一つになって、子供の母国文化を重んじながら、日本の文化、言語を教えるべきだと思いました。

・バイリンガルについての考え方が分かりやすく(均衡だけではない、定義が広い)、母語の干渉による日本語習得への影響がよくわかりました。

・現在指導している子ども達との体験を一つ一つ確認しているような内容でした。経験することで学んだことをこのように共有していただけるのは参考になり、大変嬉しいです。

・グループワークで日本語指導をしている方々の体験、アイデア、悩みなどを共有する機会が持ててよかったです。もっと色々なお話がしたかったです。

・9月から作文指導にも力を入れてみようと思いました。質問しながら文を組み立て、作文を書く練習をしていましたが、もっと取り入れていこうと思いました。

・「言語移動の背景にあるもの」の広さ、深さを知り、外国人児童、家庭のかかえている多種多様な問題を知りました。学校での様々な行事や場面でぶつかる問題点について、現勤務校ではどの程度フォローができていないのか不安になりました。国際教室担当者に講習内容をきちんと伝えます。

・すぐに実践できる講座で、最新情報を知ることができ、資料もいただけるようで、やる気が出ました。感謝しています。もっとお話を伺う機会があればよいのにと思いました。

・『にほんごだいすき』は非常に分かりやすく、製作意図や使用法を説明していただき、助かりました。「たんごの本」は絵辞典として語彙指導の際に活用できると思います。「れんごの本」の構成がまとまっていて、助詞指導に早速使ってみたいと思います。

・JSLカリキュラムAU一覧を見て、まず教師が発信している発問のバリエーションの多さに驚き、次に子どもたちがどれぐらい理解にエネルギーが必要かを感じました。日本語表現と応答表現の形が参考になりました。デリート教材は初めて知りました。

・これまでに気付かなかったが、講座を聞いて、今わかった子どもの反応があった。知ることで、子どもを救えることがあることがわかった。

・「目の前の子をよく見て、長い目で」という支援者としての心構えの部分、「同じフレーズで話す」「たたみかけない」等の具体的な方法を両輪話していただけて、励まされ、これからもやっていこうという気持ちになれた。

・自分も日本で外国人として17年生活しているものの、アイデンティティを持ててくらししているためには苦労があった。低学年の内は自分の母文化を持たせるよりは、日本の文化、日本語力を身につけさせる工夫をするのが効率的、見えない児童の存在を見つけ出し、その児童に合う教育方法を考え、長い目で寄りそっていくことに心がけていきたい。

・国際教室での具体的な実践を伺い、大変参考になりました。あきらめずにできることから一緒に、生徒と向き合い、周りの先生やボランティアの方の力とともに奮闘していってほしい姿に共感します。

・「リライト」とは、教科書と共にあるものであることを再確認した。(今までは、単に教科書の内容をわかりやすい言葉で書きなおすものを思っていた。)生徒のレベルによって、どのように教科書に近づけていくかなど、とても勉強になった。

・できるだけ早く、教科の学習に参加させるというお考えに同感する。クラスで参加できる部分も少しでも増やしていけるようにと、日々指導している。

・実際に担当している子どもたちのコース設計をしてみて、把握できていないことが多いことに気づかされます。スパイラルを意識して必要な学びを続けていきたいと思えます。(幼児向けの学習素材が導入に使えるなど思いました。)

・全10回の中で2回欠席しましたが、欠席した回が本当に残念でした。8回の講座の一回一回がとても充実していて、知らなかったことがたくさんあり勉強になりました。今回学ばせていただいたことを自分の中で消化し、実際の指導に活かしたいと思えます。

・お世話になりました！10回の講座を終えて、4月に初めて国際教室を担当して何もわからず手探りだった時と比べて、何ができていなくて、何をすべきなのかがわかってきたように思います。本当に貴重なお話をたくさんありがとうございました。

・すぐ使える教材やヒントをたくさんいただき、目からうろこの研修会でした。1回1回の指導のみならず全体を通して生徒の全体像を将来を考えながら向き合わなければならないと痛感しました。生徒の成長を見守りながら、私も楽しんで指導してまいります。貴重な研修ありがとうございました。

・同じ日本語指導をしている方々から情報を得られる貴重な体験ができました。講師の先生方のセミナーも自分も自分の指導に生かすことができるので受講して良かったです。

・巡回指導でほかの先生方との交流がなく、孤立奮闘していましたが、アイデアをいただき感謝しています。

・初めての日本語指導者の講習を受けましたが、今日の講習により全体の図がやっと見えた気がして少しホッとしました。まだ行く道は遠いのですが、進む方向が見えたようで安心感を得られました。どうもありがとうございました。

・日本人として17年生活しているものの、アイデンティティを持ててくらししているためには苦労があった。低学年の内は自分の母文化を持たせるよりは、日本の文化、日本語力を身につけさせる工夫をするのが効率的、見えない児童の存在を見つけ出し、その児童に合う教育方法を考え、長い目で寄りそっていくことに心がけていきたい。

外国人日本語指導者とともに学ぶ 日本語指導研修講座

～子どもの学び力と心の成長を支えるために～

講座のねらい

- ・外国につながる子どもたちが求める指導、支援とはなんだろう？
- ・子どもたちが置かれている環境とは？ことばの支援だけでいいのだろうか？

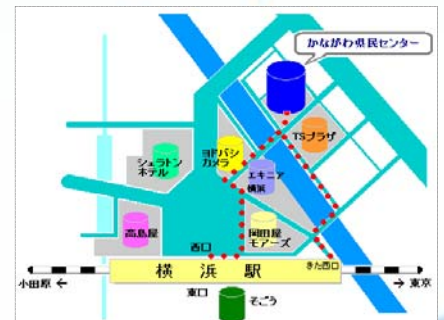
そんなことを学んで実践していく指導者を養成するのがこの講座のねらいです。

募集

- ◆ 定員：20名 ◆ 参加費：無料
 - ◆ 申込締切：7月13日（土）
 - ◆ 受講資格：横浜市及び近隣の学校で日本語指導を行っている日本語指導者
全10回のうち、7回以上出席できる方
- ＊応募者多数の場合は抽選し、7月15日までに結果をお知らせいたします。

開催

- ◆ 期間：7月21日（日）～11月10日（日）
全10回 13：30～16：40（90分×2コマ）
但し 8月4日は 9：30～12：40（90分×2コマ）
9月1日、10月27日は10：00～15：00
（2時間×2 間に昼休み60分）
- 研修内容：プログラムは裏面をごらんください。



- ◆ 場所：・かながわ県民サポートセンター（横浜駅西口・きた西口徒歩5分）

応募方法

- ① 氏名
- ② 連絡先（ご住所・電話番号・Eメールアドレス）
- ③ 受講資格（例：横浜市教育委員会日本語講師）
- ④ 本講座に興味をもたれた理由

以上、4項目をご記入のうえ、EメールまたはFAXで
お申し込みください。

- ◆ お申込み・問合せ先：メール achica.yorita@gmail.com FAX 045-783-3318
NPO法人日本語・教科学習支援ネット 頼田敦子 あて
（旧NPO法人中学・高校生の日本語支援を考える会）



主催：NPO 法人日本語・教科学習支援ネット
（旧NPO 法人中学・高校生の日本語支援を考える会）
後援：横浜市教育委員会

講座内容

回	実施日	講座名 / 学習内容	講師
1	7月21日(日) 13:30~14:30	外国につながる子どもの現状と課題 ～多文化教育の視点から～	横浜国立大学留学生センター 講師 樋口 万喜子
	14:40~16:40	母語で支える子どもの学力と心の成長	神奈川外国人教育相談サポーター 東京学芸大学大学院博士課程 李 原翔
2	7月28日(日) 13:30~16:40	バイリンガルの子どもの言語習得	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 助教 西川 朋美
3	8月4日(日) 9:30~12:40	【実践編1】楽しく学習させるための日本語教材 ～子どものレベルに合わせた使い方、作り方～	横浜市教育委員会 日本語講師 頼田 敦子
4	8月25日(日) 13:30~16:40	【実践編2】書く力を育てる日本語学習支援	鎌倉市スクールアシスタント 細野 尚子
5	9月1日(日) 10:00~12:00 13:00~15:00	子どもたちへの多様な支援の協力・連携を考えよう 個別の指導計画の考え方・書き方	愛知県豊橋市教育委員会 築樋 博子
6	9月15日(日) 13:30~15:00	【実践編3】『にほんごだいすき』を使ったワークショップ ～初期指導からよりすすんだ日本語指導～	千葉大学国際教育センター 講師 小高 愛
	15:10~16:40	【実践編4】教科へつなげるための日本語指導	横浜市教育委員会 日本語講師 古屋 恵子
7	9月29日(日) 13:30~16:40	「見えない」子どもたちへの学習支援	近畿大学日本語教育センター 講師 高橋 朋子
8	10月13日(日) 13:30~16:40 (3部制)	国際教室との連携で育む子どもの学ぶ力と居場所づくり	横浜市立本町小学校 教諭 林 宝愛
		外国籍及び外国につながる生徒の高校入試制度の概要について	横浜市立鶴見中学校 教諭 土屋隆史
		母語を大切にしたい日本語支援を考える	多文化活動連絡協議会 代表 Norman Nakamura
9	10月27日(日) 10:00~12:00 13:00~15:00	教科書と共に使えるリライト教材について 【実践編5】教科書と共に使えるリライト教材を作ってみよう	岡山大学教育学部 客員研究員 光元 聰江
10	11月10日(日) 13:30~16:40	多文化の子どもたちも伸び伸び育つ社会を作るために ～ライフコースに着目した日本語指導・支援～	NPO 日本語・教科学習支援ネット 代表 樋口 万喜子

----- 以下は FAX での申し込み用 -----

外国人日本語指導者とともに学ぶ日本語指導研修講座 受講申込書

ご氏名		
ご連絡先	ご住所	
	電話番号	
	Eメールアドレス	
受講資格		
本講座に興味をもたれた理由		